廣恵編像解

下

ヲ 3
3584
2

廣惠編像解下

高安　朱軾可亭氏纂　洪洞劉鎮靖公氏校

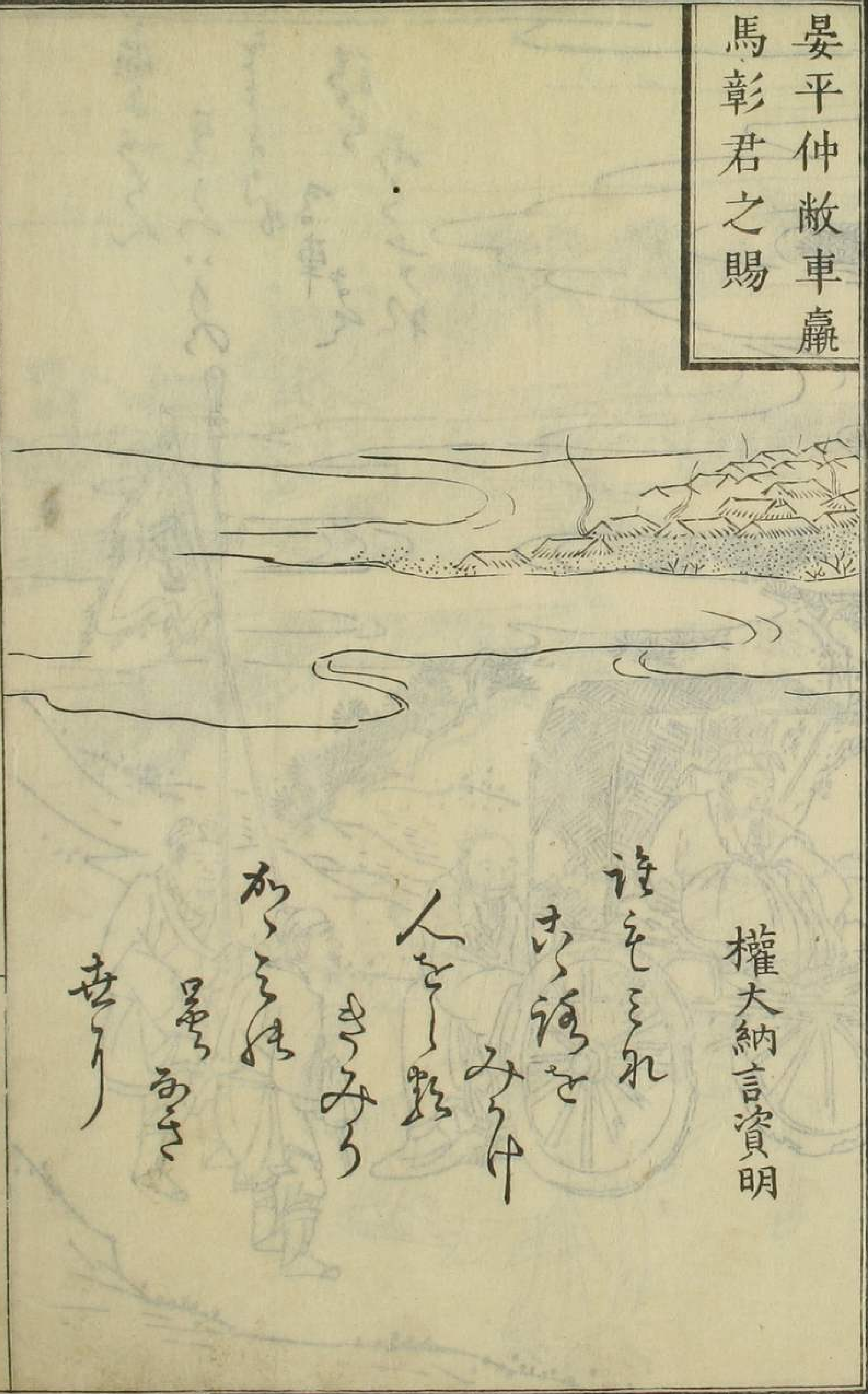
紀伊　遠藤通克輔解　南溟齋藤蠡海藏校

晏平仲敝車羸馬以朝。桓子以爲隱君之賜。晏子曰自臣之貴。父族無不乘車者。母族無不足於衣食者。妻族無凍餒者。齊國之士。待臣擧火者三百餘人。如此而爲隱君之賜乎。彰君之賜乎。

齊の晏平仲ハみぐるしき車やせこける馬小の守を

門 ヲ3 3584 2

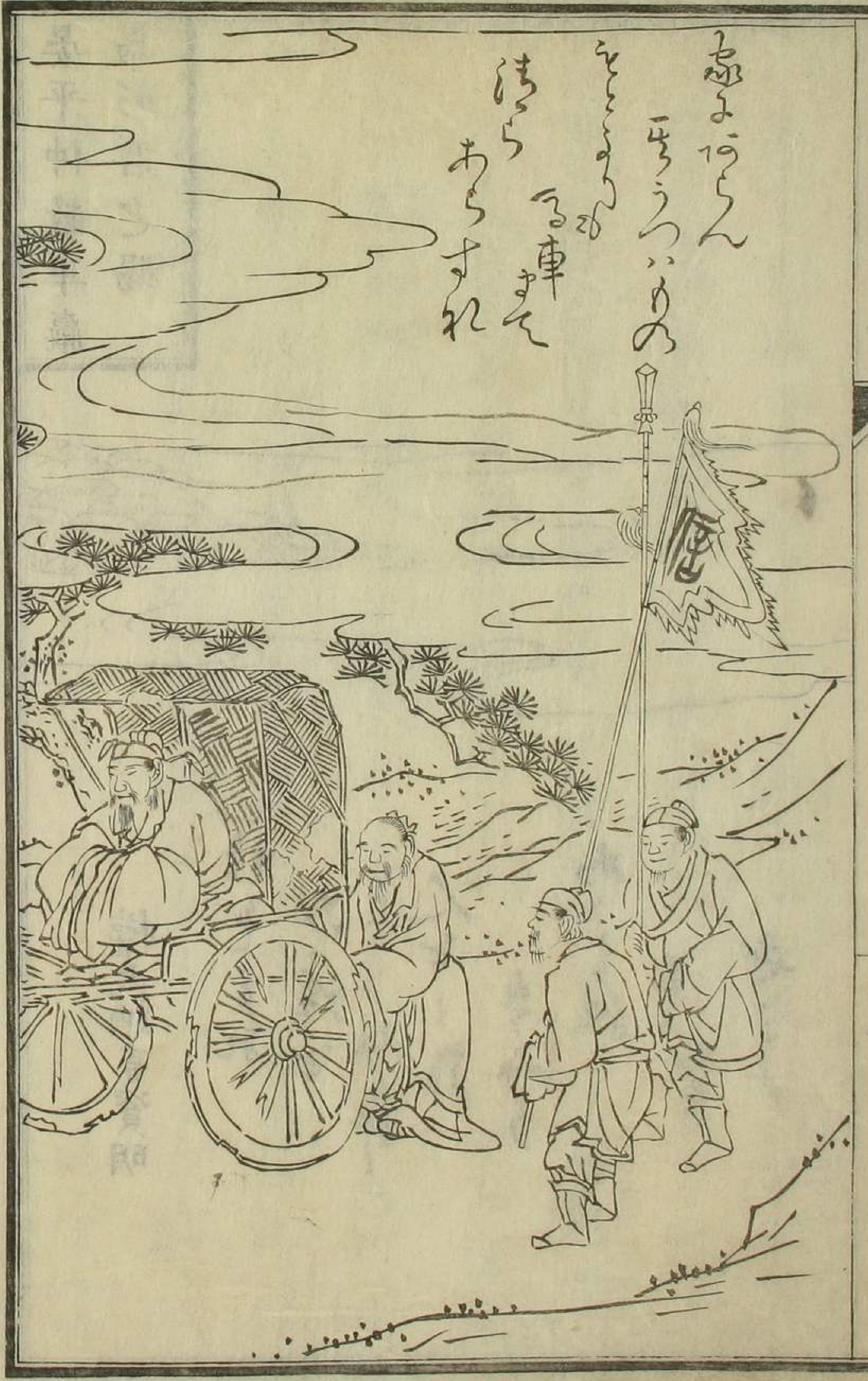
見苦しきさまにて公の朝へ出仕せしに陳桓子詰いへるそのかみ人晏平仲ハ高禄をとりながらかくみぐるしきさまなるハ君のたまものを隠すなりとて責ける晏平仲いへるハ臣がことをもちゐられてかく重き御役義をも蒙りしより父の一族のものに車にのらぬものなくたのまづしきに衣食のたすけをものおほく妻ハつゞれを凍餒のものしもべのものへ齊國の人々我らにたよりてこのほどの煙をあぐるなりの

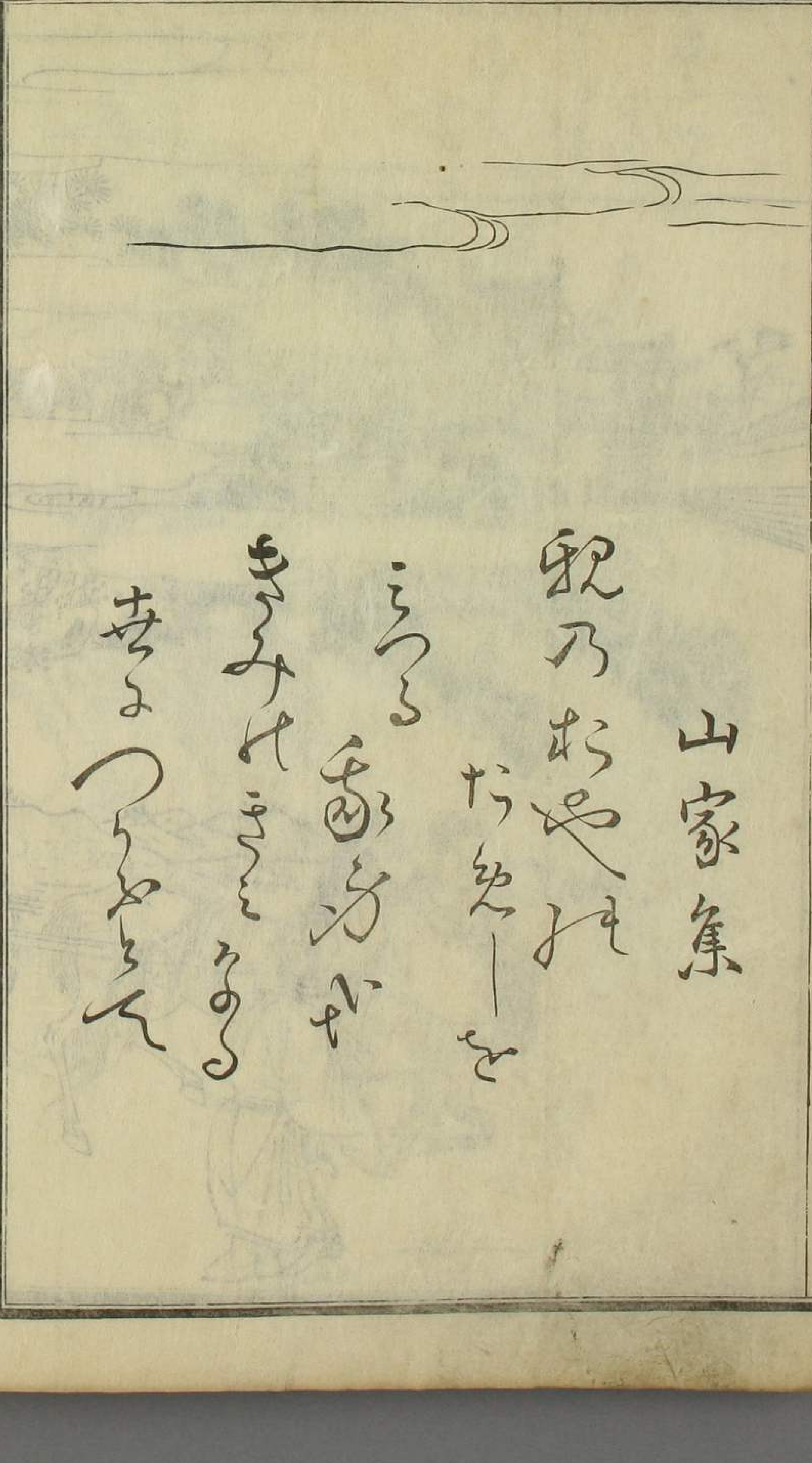


晏平仲敝車羸馬彰君之賜

權大納言資明

誰をそれ情をみちけ人をしもきみがためなる車なき世り





三百餘人に及ぶまで皆その身を倹約して人びとまで
くるゆゑかりかく君のたゑんにまさる銭君のた
までのを隠しおかれしを君が賜を彰まをと
思ひたり、やいたはしくそのくさぐさはかりしかど
范文正公。自政府出歸姑蘇。搜外庫。惟有絹二千疋。
錄親戚及閭里知舊。散之皆盡。曰族黨見我生長幼
多愧此語
學壯仕爲我助喜。我何以報之哉。
范文正公政府をはなれ出くるさとの姑蘇と

いふ所に帰られけるに庫の内を捜させ給しにさせる
ものもなくたゞ絹二千疋ありしハわかちて親類
したしきものおよび村里なるまづしきものなど
をいくく人あまたしらべて其絹をのこらず散らし
あたへられ給し人にいたるまでハわが親類どもことごとく
おさなきより學問いたし壯上の御見出したまひ
かくまで立身せし事なれども我たゞに喜ぶ所は
我ながら残念に思ひて皆給せあくとのたまひ

絹をあたへたるなりとぞ

杜正獻公衍。自布衣至爲相。衣服飲食無所加。雖妻子亦有常節。家故饒財。諸父析産。公以所得悉與昆弟之貧者。俸祿所入。給宗族。賙人急難。至其歸老。無一椽之居。寓於南京驛舍久之。

杜正獻公衍ハいやしき身分より宰相までに立身をせられしに衣類食物ハいやしかりし時とかはる事なし妻子をも常節ありておこたらずそれゆゑ金銀

不足なりしかバまた諸父たち子どもらを家にまねける時
ハ獻公自分の手元にある諸しきをわかちて禄知行を
盡くおのれの親類へわたしけれども又人の急
難をすくひなど[illegible]その隠居せられし時も家
作の取はからひもせず南京の驛舎にやどりて
このみまひせられ終に生涯人をめぐみをほどこして
其身ハわすれてもはなれのかにかろきものに
陸杲。嘉靖辛丑進士。置田周族。謂之族田。置田昇宗

子供禴祀。謂之祭田。置田以給族之子弟。置塾講業。
謂之學田。以宗族日繁徭役不支。置田分贍之。謂之
役田。
陸杲といふ人嘉靖辛丑のとし學問よくして進士と
いふになりたまひしに田地をわかち一族まづしきもの
に當にせしかつ所を名づけて族田といふ又田地を
おきさむらひのやしなふあまりて先祖まつりの入用にあて
せしをしるしを名づけて祭田といふ又田地をおき

親類どもの子どもら諸稽古の入用ふはらふ家まも
稽古所をまうけ人々に學問諸藝の稽古をさせ
らおしく名つけて學田といふ宗族とも次第まし
にく人遺諸色の入用多なりて手當不足しあれば
又田地をおもたれ分ちはらえをまくもゆゑし是
を名付て役田といひしとぞ

劉翊字子翔潁陰人嘗行汝南界中遇陳留張季札
遠赴師喪寒氷車敗停滞道路翊見曰君慎終赴義

豈宜久滞卽下車與之不告姓名策馬而去後爲郡
功曹値黄巾賊起百姓廢業翊出粟資貧者數千人
郷族死亡則爲殯殮獻帝遷都道阻羣寇翊夜行晝
伏赴之上嘉其忠拜議郎遷陳留守駕車東歸出關
見士民病死道次以馬易棺脫衣斂之又逢故人饑
困於路不忍棄去與所駕牛助歸

劉翊字ハ子翔ハ潁陰の人まそある時汝南といふ所を
さうひをまきたりしふ陳留の人帳季札といへるが

師匠の喪をとむらはんとてあるく其道を時しも
そうぎやうしく路のさかりたるに車やぶれてゆかれなづて
たゞずむに行かゝりたり劉翊見ていとふいさみは師匠のを
まもる誠は深しと玉ひ恩義をむくひ玉ふ折からとて
侯へばいかで道に手間どりなさるべきとて車をあたへ
そ季札にゆづく姓名をもいはで馬にむちあてゝさりし
たゞそのち郡の功曹といふ役勤めしとぞ黄巾の賊に
ありしかば百姓どもも業をはなれずるものなきは

なんぎせしに劉翊粟をいだしてまづしきものその數
千人をすくひけり村里のもの死しても葬あたはず出來
ぬ者のいそぐにそのものをもいたませらる獻帝都を
うつされし時こそ盗賊群をなし道路往來もなく
んぎなりしに翊夜はしのびてゆき晝はかくれ
ひそく獻帝をたづねて參りける獻帝その忠義を
嘉し玉ひ議郎といへる官に仰せられける陳留といへると
ころの守なるのかはりける車に乘東の方にゆきけり

時闞をいそぎしふ士民病みて道なかに死たるを見て馬
をうりて棺などをこしらへ衣を給ひ取をさめを
おかれまた又故郷にかへらんとの人にハちからを貸しむをそへ
をそへけるにおよびず車につけたる牛をかへてまこと
たびたびて帰りける郷邦し

全悰父柔。使齎米數千斛。到呉市易。悰皆散給士大
夫。空船而還。白父曰。所市非急。而士大夫方有倒懸
之急。故賑贍之。

全悰といふ人の父柔といへるが米數千斛を全悰にも
たらし呉の國にやりあきなひをさせしに其の米皆
呉の士大夫にあたへて舟を空らしてかへりけるその
父にまうしけるハ今このかふ所は品いそがぬ入用の品にあらず
ば士太夫たち倒懸なんぎゆゑみれにあたへしとまうし
たるとぞまうしけれ

蔣崇仁。仗義樂施。倣常平法。（即張子買田試井法意）以家資糴穀。賤糶以救
貧者。其弟崇義崇信。亦承兄志。行之七十年。歲以爲

常。

蔣崇仁ハ伏義施しをたのしむ人なりしが常平法にならひててまへの金銀をもて米やすき時糴し貴き時賤くうりいだして貧しきものを救ひけるその弟崇義崇信も兄の志をうけつぎてまた七十年の間毎としかくいたせしとぞ

瞿嗣興常熟人。鬻工王氏大雪凍餓不能起。嗣興憫之。攜錢六十緡。潛投窓隙而去。歉歲有寠人來糴粟。受其錢五千。陽忘曰。汝十千耶。倍與之粟。凡負販者。必多償其直。家人怪問之。嗣興曰。彼胼胝手足。求升合利。吾忍與較耶。

瞿嗣興ハ常熟といふ所の人なりけるある時鬻工王氏といへるが大雪にこゞえうゑてたちゐもならざりしに嗣興憫みて銭六十緡をたづさへひそかに窓のすきまよりなげいれて帰りける又歉歳寠人来りて粟を糴しがその銭五千をうけ

なりけるにいつも恩をきたる事のわすれずしていよ〳〵ねんぢ
銭十千をいだせし也おのれ其恩を倍に粟を
あたへしとぞ其後かんだあきなひするもの
ますりけるにあきなひは必多くの人のあた
なし家人あやしみて其故をたづねしに嗣與い
へるはこのさら手足にひとへの持扶きらうしてわが
一升や一合の利を求るにあらずいのちかけて争ひ
利分を求るにあらんのぞんやとぞ申ければ

尚書令符雅常曰。天下物何常。吾今日富。後日貧耳。
一日不施。則意不快。時人爲之語曰。不爲權與富。寧
作符雅貧。貧非勝富也。如此而貧。則貧誠勝富。
尚書令符雅常にいへるは天下のものに常に定
まれる事のあらんやそれ今日ゆたかなりとも後
日にはいたりまづしくなるべし其故になかでなつ
ただ一日も施しをせざればこころよからずとなん
其のときの人符雅がまことのこころをいひけるく

みなりはたらきしても富をえんとおもへども彼
符雅のごときの貧ものハ悔むしきをもすべしきに
富にまさりたるものハなしあらゆる符雅は
おくしても貧なるハ富るにまさる貧なりとも彼
まうしあんねんなる

彭思永數歳時。冬處被中。則思天下之寒者。學者常存此心。即是萬物一體之仁。（是謂欲立立人）

彭思永といふ人のいとけなき時冬被中にて

ちに快くねてまりし時自ら思ふにされハ
おくねて此のねるに世間にハまづしきその者ハ
寒しときぬれ心まど思ひしと道まるなる
人いふもきのごとあるべきなちてそれが萬物
ともに一體になく相ともに見たてなくめぐむべき
仁心なり恕なりハ人の一生行ふべき道なりん

薛西原性好施人。有疾。親爲檢合藥方。嘗脫綿襖施貧者。或曰焉得人人而濟之。答曰但不負此心耳。聞

（惻隱之心隨處發露。充之則爲聖賢。負之則）

者嘆服。為残賊

薛西原といふ人生まれつき施しを好みけり人疾ありて
きハこんなるその人のためニ合薬方を撿しはさ
ぬ又はるときハ綿襖をぬぎてまづしきにそのニ施し
ける ある人これハ孟子にいへる人ごとにし
てよろこばしむるにやといひけれバ答へて
いへるたゞその時にあたりて心にやむことを
おもひしまでにはさへしのみ人毎にいたさぬにと

えらぶにはあらずとぞ其のころの人これを感ぜ
ぬはなかりしとなん

張獻可常州人。嘗施棺。畫三千圈於紙。每施棺一則登其日月於圈内。期盡始圈之數而續圈焉。傭丐者掩道傍屍。一屍與錢若干。丐者每得露屍則喜以爲貨也。自是邑中幾無露屍矣。又煮藥膏以施瘡瘍者。寒凍則爲粥以食餓者。曰掩死人又何如活生人。

張獻可ハ常州の人なり施しのためにとて棺など

ないくらもこしらへてやり又紙に三千の圏をゑ
がゝせて棺ごとに一ッを施させたびごとにひとつのおとし
日月をふるほどに、のこりなく始圏三千のこ
をはりて後又も圏を續べしとてつねに丐者を
やしなひけるさき道路にたふれふしたるは其の取を
きせんは銭いくらぞおくる屋しと定めおきけり貧くだ
ちからもなくかのおそれいりなきかなりとてびれわ
こ錢にまかせて邑中にかたぶれたにはかしこそ

又藥膏を煮たきこれらいたことはるものに施しけるを
まぐ寒くさむる時は粥をたくりて餓者にあたへ
あり自らに死人をあはれみをさむるより又生人
を活命は格別の事なりといふ記

劉凝之隠居荊州。時適歳荒。衡陽王義季慮凝之饑死。餉錢十萬。凝之大喜。持錢至市門。見有饑色者悉分與之。

劉凝之といふ人荊州に隠居せし時折ふし饑饉なり

りけるに衡陽王義季といへる人凝之がさされたるをくるしみ死ますとせしかバとて銭十萬を餉りける凝之大いによろこびて右の銭をもち市の門にいたり饑るものにことごとく是を分ちあたへしとぞ

李士謙字子約。趙郡人。嘗出粟萬石貸郷人。明年悉召債家。為設酒食。對之燔契曰。債了矣。幸勿為念也。厥後歳大饑。士謙粟盡無可賑貸。乃罄家資糴米為糜粥。里黨頼以全活者萬計。收埋骸骨。所見無遺。遇

疾癘。延良醫製藥療之。如此積三十年。或謂士謙多陰德。士謙曰。夫言陰德。其猶耳鳴。已獨知之。人無知者。今吾所作。吾與子皆知之。何陰德之有。右芳型

確論可為好名市德者戒

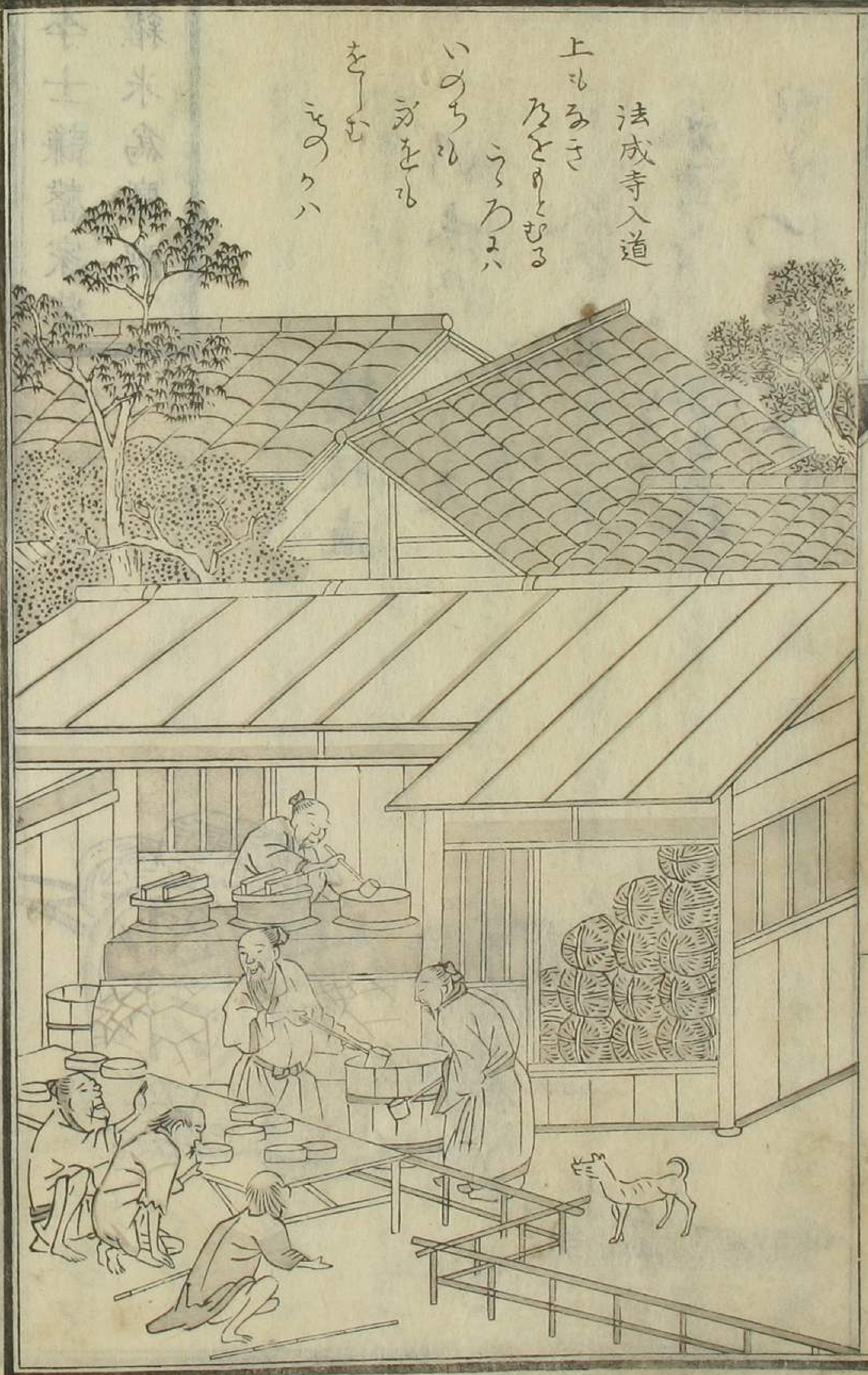
李士謙字ハ子約たり趙郡の人なりける時粟萬を出して郷人へ貸けるにあくるとしかれらをよびあつめものをよびあつめそれが為に酒さかなをとゝのへそのまへにてかの手がたを焼すてゝもはやかへすにおよばずとてみなかりいれしものもいたくよろこび

ほどこしけるその後歳大に饑たりしかバ士謙が粟
を盡して賑しのみならずその身もまづしき家の調度
ことごとく賣て米を糴糜粥にたきてむら
さとをあるきまはりけるにそのかげにて全活もの一萬人な
かりけりまた志あるそのいのちうしなはんとするにすまゐ
なくさまよふ人あれバ又疾癘あれバ良醫を
まねき藥をあたへ療治してたすけしかバかくせる
こと三十年を積たりけるにいつも士謙ハ陰德を

李士謙罄家貲
糴米爲糜粥

橘枝直

行末のさかえねかひし人の為よろこひそれかきをつみてよ


法成寺入道
上もなき
のりをもとむる
こゝろにハ
いのちも
身をも
をしむ
ものかハ

拾玉集

おもしせよ あるらひも なさかるれども いのちえをしき 物とこそきけ

施すかの絶なんに絶たる士謙いへるものを陰徳といふこれはたとへば耳鳴（みゝのなる）をわれ獨（ひとり）のみ志るて人ハ知らぬ如く陰徳ハ今に絶らず所にほとこしたる事なればいはゞ陰徳といふいふんとのひに

春秋時。宋鄭飢。子皮貸國人粟子罕戸餼一鍾。叔向聞之曰。鄭之虎。宋之樂。其後亡者乎。善其爲君養民也。

正是忠愛激切處

春秋の時宋鄭の二國うゑたましふ鄭の子皮と
いへる人ハらふたみふ粟をほどこしたまへる宋乃子
罕ハ戸ごとふ一鍾乃粟を饑まける晉の賢者叔向
といひし人此事をきゝてのたまひけるハ鄭の虎宋乃
樂ハよく人ふめぐみをほどこし君なれバ民を
やしなふ人なれバ子孫ながく家をたもつべし
とぞ申けるハ子皮のこと樂ハ子罕をさしていふ

漢汲黯爲謁者。河内失火延燒千餘家。帝使往視之。
還報曰。家人失火。比屋延燒。不足憂也。臣過河南。貧人傷水旱。萬餘家。或父子相食。臣謹以便宜持節。（好胆却只）發倉廩以賑之。（是拚得非妄希僥倖也）請歸伏矯制之罪。帝賢而釋之。

漢の汲黯ハ謁者といふ役をつとめしふ河内とい
ふ所火事ありて千軒ばかり燒たまひしが帝ゆきて
見てまゐれとおほせありけれバただちに河内へ
參りこのへりきて申上けるハ家人のあやまちて火事ゆ
ゑしに家ゞをやけうせ候へどもさまでうれへ候て

おつみはさだめられ候とも申まいりたるにおよん
を見候ひまゝ河南をとゞめり候に貧人ともおほく水
や旱またおほん義にて候その萬家に餘る親子相わ
かれ候ほどの難ぎに候ゆゑ臣まかり通るにつけ候ゆへ
おさぶらひと存し謹て便宜をもつておん君のことを
おもひこゝ御ことばをうけたまはりちか御くらをひらきてこえ人を
賑ひ候ひきそのことをいつはりをもつてまうし候つるにいたつてこの
たびの願なく候はゞいかなる罪にとも申うけ候ひたまへと

ゆゑ申けるに帝賢として其の罪をゆるし玉ひける

桓帝時。韓韶爲嬴長。餘縣流民萬餘戸入縣界。韶開倉賑之。主者爭謂不可。韶曰活數萬溝壑之人。而我以獲罪。捐其生。含笑入地矣。太守素知韶名德。竟無所坐。

快哉洵無憾也

桓帝の時韓韶といふもの嬴といふ所の長なりける
に近隣の縣よりにげ百姓とも萬餘家村ざといふ
入來りゆゑにその時韶倉を開いてすくひ主る

そのいふのことにらくのびひも行く倉ひらかん事をそ志
あるべからずと争ひけり詔以て數萬人も死
しなんをまたずにすぐるはいのし我ひとり罪
をえていのちを損するも本意なりとかんかうひをなく
そも快く地にいかんと終にひたまへる太守素より
詔が名高く徳あるをきゝしかば何のとがめ
もありましせず

東魏孫瑰爲郡丞。召入。道過昌邑。見民饑。因留不去。

籌所以濟之者萬端。或曰。非公責也。瑰曰同類即同（此是西銘）氣（語先已道破）有見同氣之垂死而不拯者乎。遲三月。活人萬計。高歡以聞。賜書褒賚。

東魏の孫瑰といふ人郡丞たりし時上より召されし
に道より昌邑といふ所をすぎたりしに民のうゑし
を見てその所に留まりて民のすくひ方をいろいろと籌
まかりける人いへるハ是ハきみが御役ならねバ
きそくのまゝハ瑰いへるハ同類のものハ直にどう

氣にて同氣のものゝ死なんとするをもすく拯(すく)はざるも
のかんやがて京へのぼることし三月だてのりおもふにより
あまりにも人ばいかなることは萬人だちまちかりしを經高(かう)
歡(くわん)といふ人つぶさに其事を言上せしかば御書(ごしよ)を玉
はりたまはりしをありしとなん

隋辛公義。爲岷州刺史。岷州饑疫盛行。其俗畏鬼。一人病。闔家避之。病者多死。公義命皆輿置廳事。（現身說法）暑月廳廊皆滿。公義設榻。晝夜處其間。身自省問。病者争

就使君。其家親戚因留養之。全活甚衆。（效全在此）

隋(もろこし)の辛公義(しんこうぎ)といふ人岷(びん)州の刺史(しし)をつとめしとき岷
州きんのにはやりえやまひおこりける土地の
ならひにて疫鬼(やくびやうがみ)をおそるゝ事甚し一人やまひ
あれば家内のものみなにげされば病者(びやうにん)多くは死にたり
公義申付て皆輿(こし)にのせ廳事(やくしよのや)の内にさし
おきしに折しも暑(しよ)中のことなるにや所の廊(らう)下まで
も病者みちくたり公義設榻(とこを)おきてみづから

間にたよりて自親にたづねきたりむかふるなしこれぞ病
者ともは皆争て公義のことはりにはなれて養はるゝその家
の親類までもとりかへて養ひ遣はしけるにのこせしに
の身全活をたもちしこともいはれ多くありしとなん

唐劉晏。爲二租庸鹽鉄使一。嘗云戸口滋多。則賦税自廣。此謂知本
故其理レ財。務以二養民一爲レ先。諸道各置二知院官一。毎二旬月一
具二雨雪豐歉之狀一以告。豐則貴糴。歉則賤糶。或以レ穀
易二雜貨一供二官用一。而於二豐處一賣レ之。知院官始見二不稔之

端一。先申二應レ免及應レ助之數一。及レ期晏。卽奏行。不レ待二困弊
流殍一。然後賑レ之。由レ是民得二蓄息一。國用亦足。

唐劉晏といふ人租庸鹽鉄使といふ役をつとめしに
はじめにいふやう民の家々の人のますほどに年貢も
おほくなるものなればまづ多くきたるべからず夫ゆゑ財用の
道理はまづはくはんで民をよく養ひ育て
ることを第一となり諸道ごとに知院官役人をおきてと
りきはめさせ毎旬月時候の考へ雨雪の模様をとゑ

豊歉を委しくしろしめたまふ時ハ貴く糴し
あしきときハ賤く糶だしゆるしハ穀物をもつていろ
以て残しおきまへかたりの人屋く所むきの入用にそなへ或ハ
豊歉ハのちの事をおもんぱかりなどしてたくはへおく
たのしみゆゑふさくれてさいそくなんぎハなくの思ひしさを
又ぬすくどしにハそのまじくの知院官役すべてのとらぶ
きく歎くを見てしらべハ年貢をゆるしたまひ
村々にまゐりをいだすべきまでまゐりたのしみ

の期になりてハまみやかに言上し困獎流殍せざる
まへに賑ひ遺せりいにゆゑ民ひんぎなく蓄息國残
入用もまた不足なかりしとなん

宋富弼爲青州刺史時河北京東大水流民就食青州。弼勸所部民出粟益以官廩得公私廬舎十餘萬區。散處其人以便薪水。官吏待缺寄居者皆給其祿。使即民所聚選老弱病瘠者廩之。仍書其勞。約他日爲奏請旌賞率五日輙遣人持酒肉飯糗慰藉出於

至誠人人爲盡力山林川澤之利可資以生者聽民擅取及麥大熟民各以遠近受糧而歸凡活五十餘萬人立法簡便天下傳以爲式

宋の富弼といふ人青州の刺史をはなれし時河北の京東といふ所大水にて百姓どもひんきうし青州へとゆゑあしさもたらぬ青州へうつり食を求めけるそのとき弼支配所のたくはへおほくの米をいだし諸みなの御すくひをあたへてすくひける公のやく所

私ある盧舎はいふせて十餘萬區の家のうちにあまり右の流民どもを住せおきて薪水なども自分よりあたへたまひこのみかやく人をその不足なきやうにたすけそのものへ又たび往来かなはぬ身をもてるその者にはそのかたちをそなへおほくはつとしたる民の内より年よき男子どもなどをとり兵士のごとくしそのものへそくへきえんして申付けその役をさせらるようその骨をとり取あつかふものをきさきとしてその後その功を奏請して御賞美等ありけるとぞ申ける大やう五

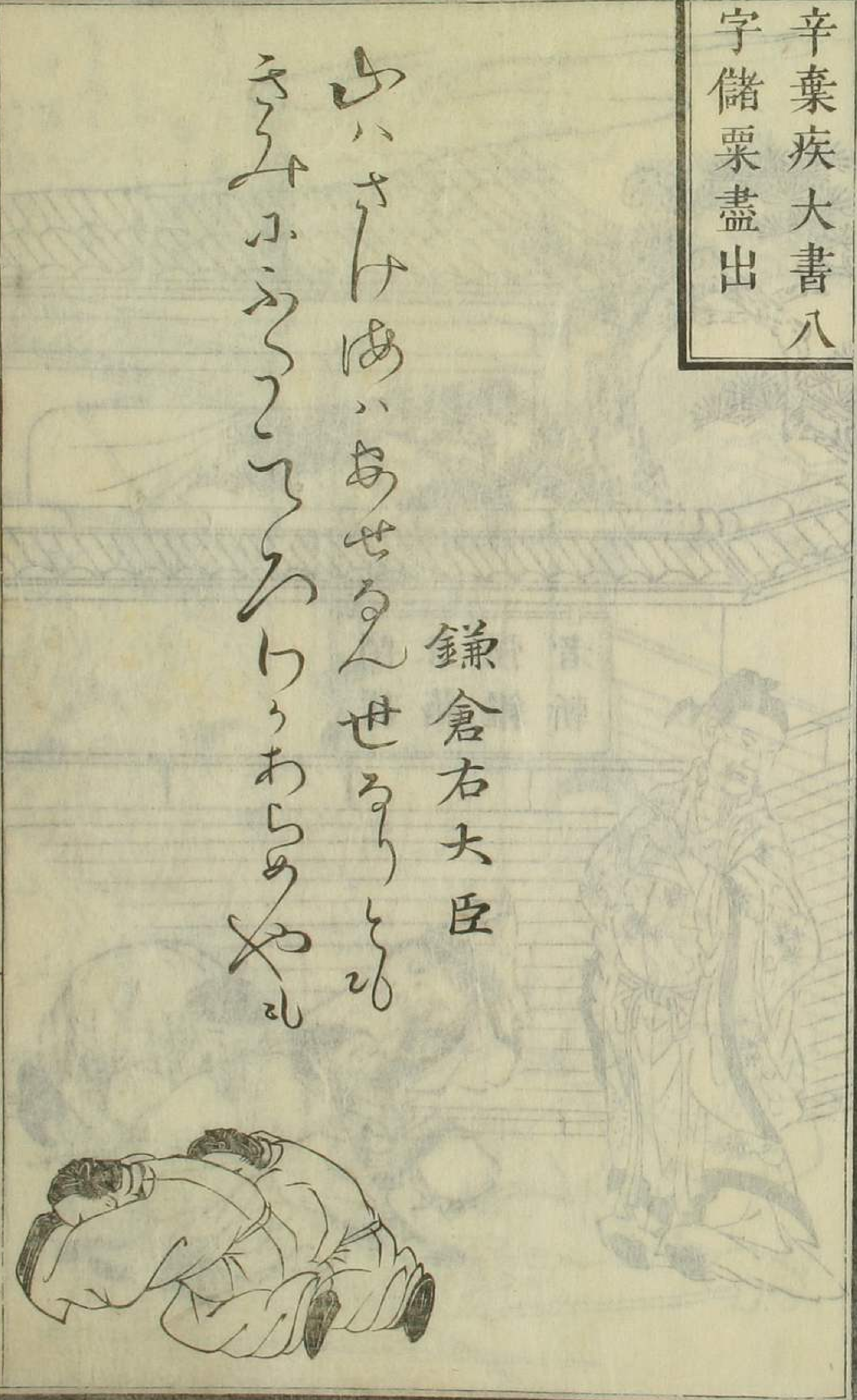
日めまハ人を遣し酒肉飯糗をそへさせやりやなら
このふ弱くきらむるゝと至極のまよいかなりいぞいたはりそ
きゆゑ人々力を盡して山林川澤之利たるかたらん
ものなどそのハ民おもしいまゝにゆるさるゝを麥
大ふとめるふおよび民おゝく遠きりの近きとおなじ
もの糧をうけてのがれけるものおよそ五十餘萬人で活命
たすけの事あるに飢歳ノ手當の法ことごとく多くたすけ
ありて天下傳へて手本とましとぞ

辛棄疾爲淮帥。淮饑。富民積粟不出。貧民洶洶。將甘心焉。棄疾乃大書八字。牓於道曰。閉糴者籍。強糴者斬。儲粟盡出。民情乃安。（要言不煩）

辛棄疾といふ人淮といふ所の帥たりし時きゝ
んありしに富民積粟をもちながらこの穀おしみてだ
さゞりしかバ貧民洶々にくみおこりて一命をすて
んとするものもありて目にあまるほど甘心せんとせしかバ
棄疾八字を大書て道に牓をかけ

たゞその文にいはく閉糶者籍ん強糶者斬んなど あまりは急なん儲粟(たくへひごめ)ことごとくいでせりしにおいて民情(ひとごころ)安くなりしとなり

明周忱巡撫南直隷。蘇松二郡大水。秋禾不登。餓莩載道。忱隨一二小蒼頭。棹小舟一葉。親行各郷里。咨詢疾苦。間遇村中老叟。呼至舟。命臥榻下。與談。竟夕不倦。見郡縣牧令。坐官衙不出者。責之曰。流民載道。忍安坐乎。民隱不上聞。將以爾等償萬民命。或饋酒

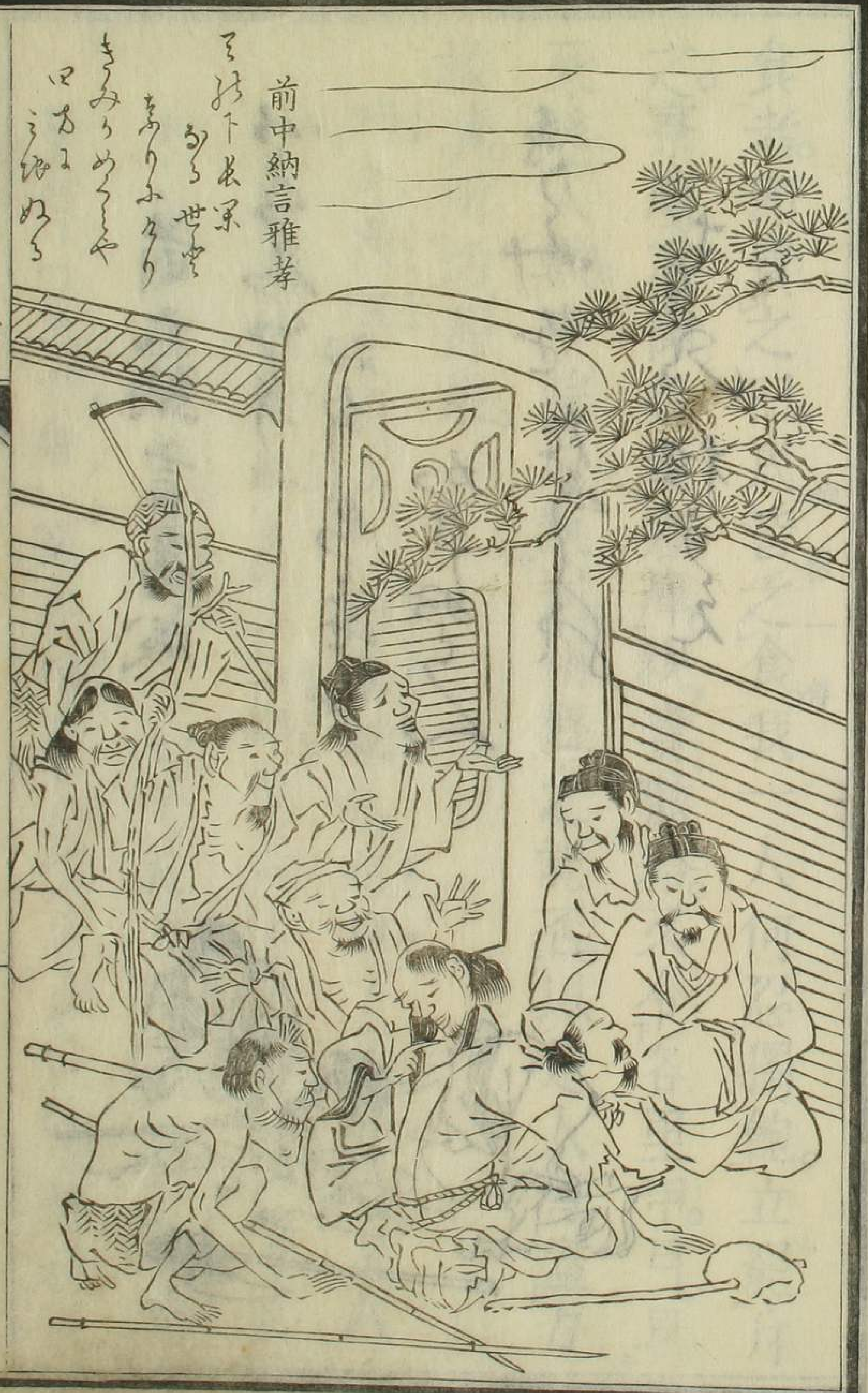


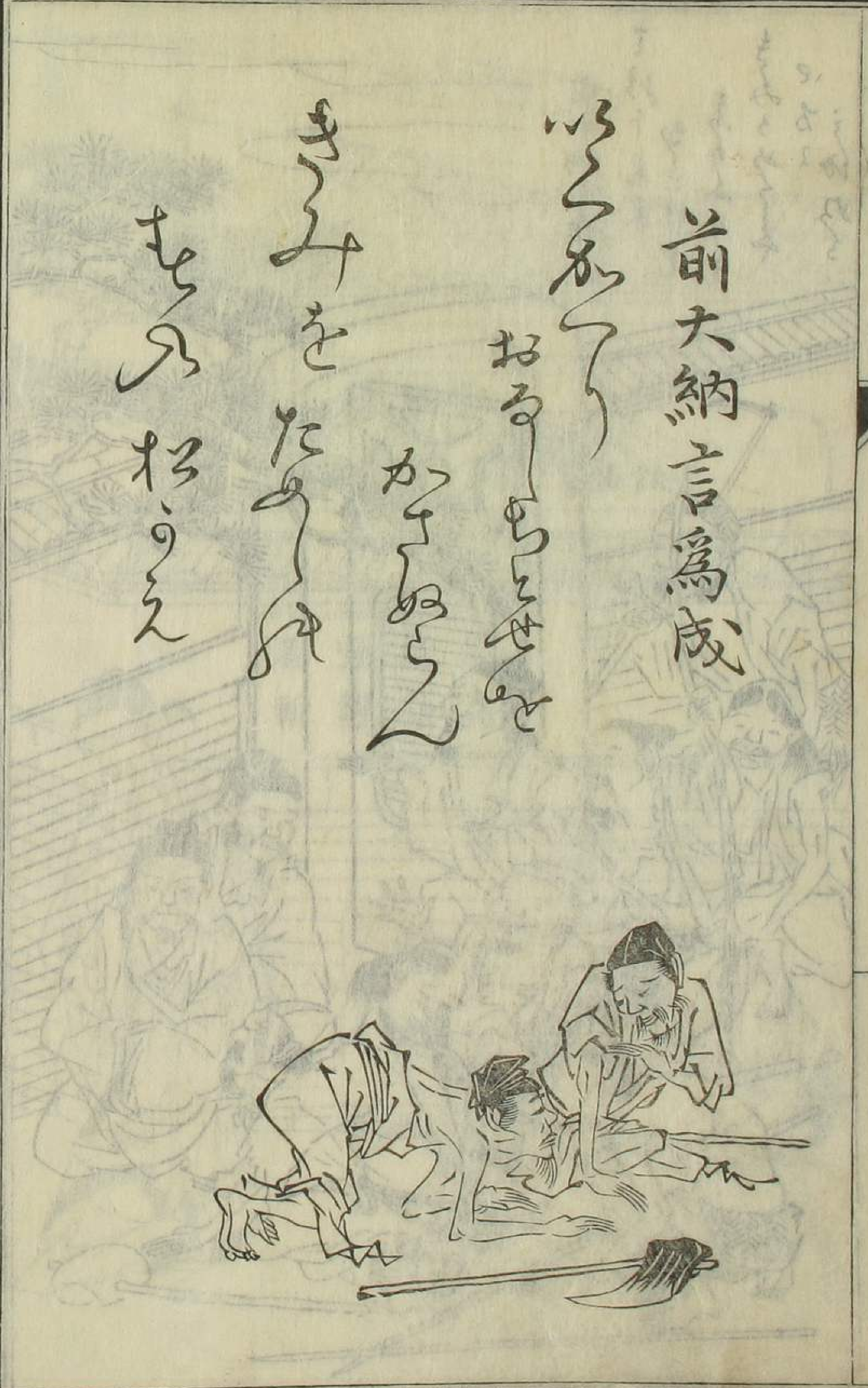
辛棄疾大書八字儲粟盡出

山はさけ海はあせなん世なりとも君にふた心わがあらめやも

鎌倉右大臣

閑羅
者籍
强羅
者斬


前中納言雅孝



食者。即責之曰。民皆乏食。我一人何忍獨飽。（痌瘝一体）立罷庁之寮屬震慴。各發倉庫。親賞散給。又令各里甲。月具死逃人數。申院以甄別州縣之能否。以是人皆盡力救濟。所活甚衆。

明の周忱といふ人南直隷の巡撫となるやくをたまはられし時蘇松といふ二郡ところそ秋のみのりあしのまかりしかは餓莩道にころもくたり忱一両人小蒼頭をめしつれ小舟一葉に棹さしてしろつのうちをあり村々

里々をめぐりくるにたゞしめることのを咨詢ぬるに
はたその間に村うちの老叟あるにあんど舟へよびて
せ榻下にあましく究竟夕とかにかり里ゆうしたるまゝ
郡縣の牧令やくみじ官衙にまゐりてぬらくこまなり
にいそぐることのとゐるとさは責ているへは道にさまに
ぬにげ百姓どもをよそにうちくたまのゆうある節
やまんじをるにちのぎんやたつのなんだ行るゆうさぬ
のらことをとかうじてまくひよおそなさらそう思じにせば

ねんじちをと萬民のいのちをたくの包に出度だをやまと
酒さうれをおこり来ることのゆゑだたちまち持みへぞし
るいたとみなに飲食我にかりれあとてあくまでくらふ
りたのぎんやとくそのうちに役をたちどころにやぬ
たりぞけしこのちだ寮属ども皆震懾させるかりけれ
すれのくその所をくらをきかしたそくとづのうとちは
たくをかくにつけはそんより又各里の死せることのおほげ
らるこのて人數月日をつぶさにかきしるしむたるづゝ

為申はげ一州一縣のとりあつかひふさとおしきいて
を甄別かぞえて厚たる所くせずゆゑ人々をらげて皆力
をはげまして救濟をせしなばいのち全うせしことの甚多
かるべき

景泰時。僉都御史王竑。巡視江淮。適徐淮間大飢。民
死枕籍。竑至盡所以救荒之術。流民數百萬猝至。竑
大發官貯賑之用米一百六十餘萬石。窮晝夜竭思
只是一個勤便可活萬姓
慮。躬自查閲撫慰。毋令失所。又委用官吏。必多方獎

勸激切周摯。人樂爲用。活人無算。初帝閲疏大驚。徬
徨廢食。後得竑奏。太言曰。好御史。不然飢死我百姓
矣。右官方

明の景泰年中僉都御史王竑江淮を巡視せし
に折ふし徐淮のあひだ大いに飢て民枕籍べて
しにたふれてねふしたる竑そのところにいたり
てききんをすくふてだてに心をつくし流ちるも又なる
地より百姓とも數百萬人あまたにきたりけれまさて

に竝上の御たくはひ米をおびたゞしくつゞで
ありけるが其の米高凡一百六十餘萬石とぞ聞えし
さて〳〵すゝめかく心をつくし自ら査閲撫慰し
おんぎせざるやうに夫々のてあてをぞつくしける又かの
諸役人をえらみわけてこれらに打ませのものをよしく諸
方のとめるそのものを獎勸してまくなせ激切周摯
たしければ人々も此人のためにいのちも力をつくし
用をせざるもなくみなあげけるさてこそ人をせすくゐし

そのほか里もあまりある祐えん帝此處のきさん
の書ほげを閲玉ひて其のおびたゞしきにいたくおど
ろきたまいいくハせんと傍徨て供御をもきこしめさ
ずたゞその竝が方あげをさし上しをこた
ずいく思ひで気な里ほげくさでも好御史かれ
此人あるにかんだかとんでや我民ら気志れまし
こ竝をためのあほぞん玉ひ和

久しくして戦ふも止ざりしかも
此末世ハ合國皆完備にして神津御代
くまて 大平の世法武も常にし九變らぬ京
麻し 御國なりけて以毎とに毎天つさ能
大部の雲行雨施まし律似清毎實にふ安
ある哉いとの下物も十とせしハ事 益遠記
伝のさい近き里わの農民皆喜びて賀し給
なる末迄しもたハ保とく志れ共皆其意かな

も有みて少く經一の形てし計もを経ゆ
清乃康煕六十年三音龍武字し朱何亭
清国の家言手書作畫家人を論し
二百八十人餘字畫人相記し尾この地遠藤大
人あり然あるに免て貫る多乃解作畫
を渡して以この仮人相法の里に在りを纏
多る事いろ清人も形して此写してゆく人物
都の道学及文の至る悉くのして及二冊の

筆みて人能難くして然るあなと子と九之論へ
至刑と小笹の空の此に志彼く人もいふ然り
きて古輩こ手美相菩使覧哉何らかし
翻て廣恵編像解述出き語多建古法
素之玄人くこの多みハ
天乃大御恵哉かくし古多み志もハ方寺つとし
こと久さしとも至おのへ仏あい稀力哉あらし大
法能も終く相いて人の法ハ千よ冊の俵

ふる海を生渡邊張山氏士筆写ゆるふ張呈
那の時ハ七十六ものの清民写屍活て此百家
浦如の達名も計九安にしいらん其終乃
免侍歟汁く也

七十翁

葛山源維文

序訓し久も綱得しぬ能の此ふ要乃
さて後明加幾る也見爰人ハ見ら

跋

事出於至誠則可以感動人矣如清朱軾
之救饑民二百萬人至誠感動人心者非耶
康熙辛丑歳晋饑軾奉命救之偶在衰絰
時暑甚扶病驅車日二百里至剔發儲粟
賑之又諭富豪助之遠近感泣爭先出粟

以助之及將還者幼慟哭至拜不能起苟非至誠感動人豈能至於此哉軾之所着廣惠編乃錄先賢勸糶之說以諭富豪者也其述莩餘轉死之狀悲痛慘悽如在于目前誰不惻然涙下吾富家豪族雖八珍之饌將投箸亦不忍食空哉當時全活二

百萬人矣亦宜淵遠藤先生學究古典道唱文武慨然志在經世不拘拘于詞章之末今年偶逢凶歉讀此書有感譯以假字開以画像名曰廣惠編像解以刊布於世其意在令愚夫愚婦了然易曉其丁寧教戒之意切矣謹題一辭於卷末

天保卯年癸己十一月

紀伊助教　南溟齋藤蠡識

臨皐小出正與書

近者白鶴先生著救荒便覽令余父子審定救荒名物謏話之隙傍見几上有一冊子題廣恵編余問是何等書先生曰是清朱可亭所著救荒急務之書也既爲作解近日將梓行余繙

而觀之縷縷懇懇按寫出饑民鵠面菜色待斃乞食者流離者藉死者泣者卧者之態慘痛哀切究乎一擊之中余嘗然而栗戚戚迫于胸因請作圖可乎先生曰編中有圖即稗史小說耳余曰唯唯否否然則有說乎

曰有為圖說之撰宋有圖按癸辛雜志皆載彩畫清太平府知縣梁延年聖諭像解其他三綱行實等皆有圖以代面命耳提愚頑野人不知一丁字者非畫以諭之則不可豈與稗史同日而論乎先生曰子言陳腐縷說

人皆知之多喋々爲之文人多口比々皆然不覆命以覆不禪吏曰以禪吏可畏々甚子其止焉余自奮曰皓々云何受世々塵埃語不言字磨而不磷涅而不緇勸耀之奇策發孟誅之情言々出于肺腑中精氣貫日月

士々多口奚傷先生之明先生莞爾笑曰直々言是也其試製圖余拙畫瀉之草木寫真之餘喜屬役

天保癸巳仲冬

嘗草林處坂本直大拜撰

横相新